北方領土の自然とむかしのくらし

人口

各島の人型は1945年当時の人口。

第二次世界大戦が終わるまで北方領土の4つの島には、1万7,291人の人々が住んでいました。この中には、みなさんと同じ小学生もたくさんおり、小学校が39校もありました。

色丹島色丹村チボイの少年たち

歯舞群島 志発島のかんづめ工場

おばあちゃんのお話聞いてみようよ！

昔の子どもたちは、何をして遊んでいたのかなあ？

自然

元島民のお話

藻取村はサケ・マス・カニ・タラ・ノリなどが毎年たくさんとれて、函館・青森・秋田の方から出稼ぎの人たちが来ると400人足らずの村の人口が1,000人以上になるんです。

たくさんの魚が尾を振りながら川をのぼってゆくので、川が煮えたっているように見えたものです。

北方領土の島々には、たくさんの動物たちが住んでいます。キタキツネ、アザラシ、オットセイ、トドなどのほか、国後島、択捉島は、森林資源に恵まれていてヒグマも住んでいます。

また、エトピリカ、エゾライチョウ、オジロワシなどのめずらしい鳥も多く見かけます。北方領土のまわりの海は、寒流と暖流が接しているため世界の三大漁場のひとつに数えられています。特にサケ、マス、タラ、タラバガニ、ハナサキガニ、コンブ、ウニ、ホタテなどの宝庫です。

貴重な動物がいたり、いろんな種類の魚が捕れたりしたんだね。

親潮（千島海流）

人々の生活

元島民のお話

みなさんは今どんな遊びをしていますか。

あの頃の島の子どもたちは、とにかく外で遊ぶことしかなかったですよ。

夏は川や海で釣りをして、女の子はなわとび、ままごと、2年生頃になると針をもって、残り布でお人形をつくり、着せ替えをして遊びました。秋にはハマナス、ガンコウラン、岩ツツジなどの木の実・草の実を採りジャムにしたりおやつがわりに食べたりしました。山や川、海がすばらしい遊び場でした。

冬はとてもきびしいです。吹雪の日が多く電気、ガス、水道もありません。今の生活と比べると不便だと思うかもしれませんが、島の人たちは仲良く、平和に暮らしていました。

家族一緒にマスの塩蔵加工をする（択捉島留別村）

国後神社の祭礼